



「学校評価アンケートの記入をよろしくお願いします」

現在、学校では保護者や生徒から城山中学校の教育に関する評価アンケートをお願いしています。このアンケートの結果は、これからの城山中学校の学校教育内容に反映されていきます。

戦前の学校では、1890年に天皇から下された教育勅語にもとづき、画一的な教育が日本全体で行われていました。1941年の国民学校令によって、太平洋戦争中はファシズム的な教育が実施されました。全体主義を全面的に求められた学校教育では、生徒一人ひとりの個性が学校教育の中心に置かれることはありませんでした。男子は頭髪が丸刈りとされ、女子は長い髪は三つ編み、スカート丈を床から同じ高さ決められたり、すべてが同じスタイルにされました。

1945年の大日本帝国の敗戦により、日本は民主主義国家として再スタートします。学校は国家の政策だけで運営されるものでなく、保護者や地域の想いや願いも吸収し、生徒一人ひとりの成長を見守り、助長させる教育の場所となりました。一人ひとりの生徒の個性が尊重され、その能力に応じて等しく教育の機会が保障される場となりました。戦後の新しい教育制度のもと、確実に日本の人権意識は高まり、誰もが認める成熟した社会を実現してきたと思います。民主的な教育が民主的な社会をつくり、ファシズム的な教育がファシズムの社会をつくります。教育は社会の根源なのだと思います。

城山中学校の教育はいかがですか？すべての生徒の個性が尊重されていますか？生徒の能力が十分に伸ばせる環境になっていますか？保護者の方の声が大切です。過日さくら連絡網で学校評価アンケートを保護者の方にお願ひしました。まだ、3年生の約3分の1の保護者の方のアンケートの回答がいただけていません。民主教育を発展させるためにもアンケートへのご協力をお願いいたします。